

親友会グループで働いてみた感想！

入職1・2年目のフレッシュな職員たちをインタビュー。

その人らしい最期を
迎えられるように
全員が同じ目標を持ち、
看護しています。



2014年6月入職

薬師山病院 看護師

本村 謙治

Q1 入職した動機

A 地元の長崎で約9年間、看護師としてキャリアを重ねていくなか、急性期病院で働いたときに、人工呼吸器をつけて延命させる看護に疑問を感じました。人はいずれ亡くなりますが、その人らしく最期まで暮らす手助けがしたいと思ったのです。薬師山病院に興味を持ったのは、全国でも珍しい緩和ケア専門のホスピスだったから。実際に病院を訪れると、すれ違う職員のみなさんが立ち止まって私に挨拶をしてくれ、今までのバタバタした病院の雰囲気とはまったく異なりました。“その人らしく最期を迎えるためにサポートする”という同じ目標に向かい、一体感を持って仕事ができる点に魅力を感じました。

Q2 現在の仕事内容

A 一般の病院であれば、毎日欠かさずバイタルチェックを行います。薬師山病院では検温は最低週に1回。その他は必要時に行うだけで他の病院のように毎日ではありません。その人らしく穏やかに暮らせるように、私たちは日常生活の援助や看護を行います。例えばお風呂がストレスになるなら強制せず、お酒が好きな人であれば月2回のバーコーナーに誘って楽しんでもらう。個人情報スタッフ間で共有してチームでよりよいケアを実践しています。私たちが一番気にするのは痛みです。痛みの種類によって治療法や医薬用麻薬の使い方は様々ですが、それを使い分ける知識や技術、患者様の接し方など学ぶことがたくさんあります。

Q3 入職してから印象に残っていること

A 薬師山病院では、患者様とその家族様との関わりがとても深いと感じています。ある患者さんは、私の見た目の雰囲気を見て「本村弁護士」とあだ名をつけ、とてもかわいがってくれました。お互いの生い立ちから家族のことまで何でも話し、親子のようなつき合いをしていました。その方が亡くなったとき、息子さんが驚くほどの大きな声で「ありがとうございました」と挨拶をしてくれたのです。感情をコントロールしなければ……と思いましたが感極まり、私は職場で初めて号泣しました。その後1周忌の時来院された際に家族のみなさんと何時間も患者様について語り合ったときに聞いた「とてもいい思い出の場所です」の言葉は、今でも心の中に鮮明に残っています。



CHECK!

上司から見た 本村さん

患者さんやスタッフに笑顔を投げかけてくれる本村さんは、職場を和やかにしてくれる存在。なかには寂しくて何度もナースコールを鳴らす患者さんがいらっしゃいますが嫌な顔一つせず、初めてうかがうような笑顔で接して安心感を与えてくれます。頑張り屋さんで誠実で、患者さんに指名されることも多いです。昨年結婚して守る人ができた今、人としての優しさや幅をより高めてほしいですね。今でも安全面に関する改善や提案に取り組んでいますが、病院組織の軸となる委員会活動への積極的な参加も期待しています。



看護師長
伊藤 陽子